

公益財団法人かめのり財団
平成 30(2018)年度 事業報告

平成 30(2018)年 4 月 1 日～平成 31(2019)年 3 月 31 日

平成 30 年度主要事業の実施状況と成果を報告する。

基本方針として、定款にうたわれる 3 つの柱

1. 高校生交換留学および大学院アジア留学生への奨学事業
2. 青少年の交流および言語教育支援を助成する国際交流事業
3. それらを推進するために、かめのり賞の顕彰、講演・シンポジウム等
その基盤支援事業

を実施することにより、日本とアジア・オセアニア諸国との相互理解・国際理解の促進を図ることができた。

また「次なる 10 年の方針」を重視した事業内容と、若い世代が自ら育つ環境づくりのため、①アジア・オセアニア地域、特に中国、韓国、東南アジアを理解する日本の青少年の育成、②お互いの理念や目的を尊重し、協働できるパートナーとの事業展開を考慮に入れた事業の実施に取り組んだ。

1. 青少年留学支援事業

(1) 高校生交換留学支援

今年度は平成 18 年度～平成 29 年度の奨学生の追跡調査を行った。またそのデータに基づき、平成 31 年 3 月実施のかめのり同窓会の準備を行った。

(2) 大学院留学生支援

以下の奨学生 10 名に月額 20 万円を支給した。

平成 30(2018)年度 大学院留学アジア奨学生

李 侑娜 (中国)	Ms. Li, YouNa	リュウナ	2016. 4-2019. 3	慶應義塾大学 法学研究科公法学専攻
陳 晨 (中国)	Ms. Chen, Chen	チンシン	2016. 4-2019. 3	法政大学 人文科学研究科日本文学専攻
蔡 珂 (中国)	Ms. Cai, Ke	サイカ	2016. 4-2019. 3	千葉大学 人文社会科学研究科文化科学研究専攻
楊 慧敏 (中国)	Ms. Yang HuiMin	ヨウケイミン	2017. 4-2020. 3	同志社大学 社会学研究科社会福祉学専攻
趙 沼振 (韓国)	Ms. Cho So Jin	チョソジン	2017. 4-2020. 3	東京外国語大学 総合国際学研究科国際社会専攻

白 瑞 (中国)	Ms. Bai Rui	ハズイ	2017. 4-2020. 3	中央大学 法学研究科民事法専攻
郭 昊 (中国)	Mr. Guo Hao	カクコウ	2017. 4-2019. 3	立命館大学 文学研究科行動文化情報学専攻
Ms. Nguyen Thi Thu Thao (ベトナム)		クエンティウタオ	2018. 4-2021. 3	早稲田大学 アジア太平洋研究科 国際関係学国際関係学専攻
Ms. Nguyen Phuong Bao Chau (ベトナム)		クエンフオンハオ チャウ	2018. 4-2020. 3	一橋大学 商学部商学研究科専攻
Ms. Kuy Siemkiang (カンボジア)		クイエンキアン	2018. 4-2021. 3	大阪大学 言語文化研究科 日本語・日本文学専攻言語文化研 究科

大学院生へのサポートの一環として、平成30年9月9日～11日の3日間、研修交流会を鹿児島県鹿児島市で実施した。今年度は奨学生10名と卒業生1名が参加し、各自の研究テーマの発表と意見交換、OBによるミニ講義や論文指導、また現在抱えている課題等を共有することによって、奨学生の状況を把握し、学生同士の親睦を深めるよい機会になった。

また、平成31年度採用の「大学院留学アジア奨学生」の募集・選考を行った。指定校24校のうち3校から候補生の推薦があり、平成31年3月6日に選考試験（面接）を実施し、奨学生選考委員会により以下の2名を奨学生として決定した。

Ms. Chittarak Chanika (タイ)	チッターラータック チャニカー		2019. 4-2022. 3	お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻 国際日本学領域
Mr. Jariyanusorn Jet (タイ)	ジャリヤヌソ ジェット		2019. 4-2021. 3	埼玉大学 人文社会科学研究科 国際日本アジア専攻

過去の奨学生の追跡調査を実施し、平成31年3月実施のかめのり同窓会の準備を行った。

2. 青少年交流および言語教育支援事業

(1) 青少年国際交流

① 第11期 高校生短期交流プログラム

(公財) YFU 日本国際交流財団により平成30年8月1日～8月24日の間、日本人高校生10名（関西地域6名、名古屋地区4名）を韓国に派遣した。参加生はソウルでのオリエンテーション後、韓国各地域でホストファミリーと生活しながら、現地の高校に通うという貴重な体験をし、韓国への文化理解と友好関係を深めた。

② 第5回高校生カンボジアスタディツアー

(公社) 日本ユネスコ協会連盟との共催事業として、平成30年8月4日～11日、全国から選考された10名の高校生が、カンボジアのプノンペン、シェムリアップの2都市を訪問した。プノンペンでは在カンボジア日本国大使館、UNESCOプノンペン事務所、国立博物館、キリング・フィールド、ツールスレン博物館を訪れ、カンボジアの識字教育、遺跡保存を学び、歴史に触れると共に平和の尊さをあらためて共有した。シェムリアップでは当該団体が支援する寺子屋に訪問し、子どもたちとの交流を通じて、貧困村における教育、生活向上支援の現場について考えを深めた。世界遺産アンコール遺跡群バイヨン寺院での石像修復やクメール伝統織物研究所の訪問でカンボジア文化への理解を深めた。帰国後、参加者たちがカンボジアの現状をそれぞれの地域で発表し、多様な経験から様々な刺激と気づきを受け、大変意義深いプログラムであった。

③ 第10回中学生交流プログラム

(公財) AFS日本協会により、平成30年8月4日～13日、北海道から選考された中学生10名をインドネシアへ派遣した。今回は「多様性の中の統一」をテーマに、事前学習として「アイヌ文化について」「宗教の多様性について」のテーマ・プレゼンテーションと日本紹介プレゼンテーションを準備して出発した。ジャカルタではイスラム教・キリスト教施設への訪問、北スマトラ州シボルガで、学校訪問、フィールドトリップ、現地家庭へのホームステイを行い、多宗教・多文化国家であるインドネシアの理解を深め、温かい交流を育む機会を得た。

④ 日本高校生訪中事業

(独) 国際交流基金 日中交流センターとの共催事業として、平成31年3月14日～21日の約1週間、全国各地から集まった日本人高校生14名および教員3名が、中国浙江省杭州市、江蘇省蘇州市および北京市を訪問した。杭州市では、浙江工商大学内のふれあいの場訪問、浙江工商大学の大学生らとの交流、杭州外国語学校訪問、また蘇州市では、蘇州外国語学校訪問(授業見学・交流会)、同校生徒宅へのホームステイなどを行った。また、北京では天安門広場・故宮博物院の見学を行い、参加者の中国へのイメージは前向きなものに大きく変化し、中国との友好関係や相互理解を深め、参加者から高い評価を受けた。

⑤ かめのりスクール 2018

日本とアジアの中高生を対象に「かめのりスクール 2018」を実施した。アジア生のみ対象の「かめのりスクール@東京」(平成30年7月22日～27日)と「かめのりスクール@御殿場」(平成30年7月27日～30日)の2部構成で行った。「かめのりスクール@東京」はアジア6か国(インドネシア、マレーシア、タイ、中国、韓国、フィリピン)より招聘した日本語を学ぶ高校生12人が「日本のナマの新旧の文化を知る6日間のプログラム」に参加した。また、「かめのりスクール@御殿場」はアジア生と日本人中高生計30人が青少年センター東山荘(御殿場市)で、グループに分かれ国連の持続可能な開発目標(SDGs)

のメッセージを伝えるというタスクをまとめ、発表した。異文化理解を促すプログラムを通じていくつかのグループワークによりコミュニケーションの難しさを乗り越えながら、活動を通して中高生が交流し、友好と相互理解を深めた。

⑥ かめのり中高生アンバサダープログラム 2019

平成 31 年 1 月 19 日～27 日の 9 日間、フィリピンのマニラ市およびケソン市へ日本全国から 12 人の中高生を「かめのりアンバサダー」としてフィリピンに派遣し、現地の高校生他いろいろな世代とコミュニケーションをとりながら、両国の文化や社会を考えるプログラムを実施した。生徒達はプログラムの 3 つの目標（コミュニケーション、協働、文化理解）に加え、それぞれの目標を立てその達成にも取り組んだ。市内観光、高校訪問、JICA 訪問、NGO 訪問、そして国際交流基金マニラ日本文化センターとの共催事業「にほんご人フォーラム 2018（フィリピン）」に参加した。

後半の「にほんご人フォーラム 2018（フィリピン）」では「ECO」をテーマに英語、日本語、フィリピン語が入り混じりながらフィリピンの高校生との共同活動を通じて、お互いを尊重し、言葉の壁を乗り越えそれぞれの国を知り合う良い機会となった。コミュニケーション能力を高め、異文化を理解しながら、友好と相互理解を深めた。

⑦ かめのりカレッジ 2019

今年度初めて国内在住の大学生を対象に、平成 31 年 2 月 22 日～25 日の間、茨城県つくばみらい市スターズ総合研修センターにて、グローバル・コミュニケーションに必要なスキルセットとマインドセットの醸成を目的とした「Kamenori College 2019」を実施した。アジアからの留学生 4 名を含めた 21 名の大学生が参加し、3 泊 4 日のプログラムで、グローバル・コミュニケーションの専門家たちによる異文化理解、効果的なコミュニケーション英語、自己成長と自信を育てる実践形式のセッション、大学で教鞭をとる講師による専門的な授業、過去のプログラム参加者による応援スピーチ、そしてチームプレゼンテーションを行った。グローバルに活躍する人材育成の研修として初めての試みであったが、参加者たちは、意識が高く意欲的に取り組み、英語で主体的にコミュニケーションを行うためにスキルとモチベーションを向上させ、自信をつけた様子であった。

⑧ かめのり同窓会

平成 18 年度～平成 29 年度に実施した過去のプログラム参加者および奨学生を対象に、平成 31 年 3 月 30 日にアルカディア市ヶ谷で実施し、計 74 名が参加した。日本のみならず、中国、韓国、インドネシア、タイ、フィリピン、インド、カンボジアのからも参加し、大学等への進学、就職と幅広い分野で活躍していた。各プログラム別に出席者の現況の報告や同期の参加者との交流のみならず、かめのり財団の奨学生・プログラム参加生として、年齢をこえて交流する場となり、友好関係を深める良い機会となった。

(2) 国際交流事業の一般公募助成

本事業も中長期計画での見直しの対象となっており、平成 31 年度の募集に向けて、一般公募助成の新たな枠組みを検討した。

(3) 海外日本語教育サポート事業

平成 30 年度は以下の事業を実施した。

① (独) 国際交流基金との共催事業「にほんご人フォーラム 2018」の実施

平成 30 年 8 月 23 日から、学習者と教師の研修プログラム「にほんご人フォーラム 2018 (インドネシア)」をインドネシア・バリで実施し、教師が 7 日間、高校生が 5 日間参加した。タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、日本の 6 か国を対象に、高校生 24 名と中等教育機関の教師 9 名が、高校生セッション、教師セッションに分かれて活動した。教師たちは「生徒の批判的思考とコラボレーション」の評価方法にフォーカスし、生徒活動の観察、評価、よりよい評価方法を作成した。高校生たちは「にほんご人としてできること」という課題に多国籍グループで取り組みながら日本語を使って学び・交流し、現地の高校訪問、バリ舞踊のワークショップ、バリで活躍する日本人の講演等インドネシアの文化も学ぶなど、友好と相互理解を深めた。

② 国際交流基金ベトナム日本文化交流センターへの助成事業「ベトナム中学生日本語キャンプ 2019」

ベトナムの中学生を対象に、平成 31 年 3 月 1 日～3 日の 3 日間、5 つの都市・地域（ハノイ・ダナン・フエ・ホーチミン・ビンズオン）で日本語教育を実施している中学校 32 校から生徒 51 人とベトナム人日本語教師 17 人が参加し、第 6 回目のキャンプを開催した。今回は「ふるさと」をテーマに日本語劇を制作、上演した。日本人へのインタビュー等で日本語能力を発揮するほか、劇を制作する過程で創造性や協調性、協働力を高め、学びあう機会になった。教師はファシリテーターとして生徒の活動に加わったり、教師プログラムの参加教師は生徒の活動の観察とその変化を参加生とにフィードバックする活動を通じて、日本語教育の意識向上や、生徒と教師の地域間の垣根を越えて交流する機会となった。

③ 国際交流基金ベトナム日本文化交流センターとの共催事業「ベトナム高校生にほんご人 100 人訪日事業」:

国際交流基金ベトナム日本文化交流センターとの共催で、2016 年度～2018 年度の 3 年間にわたり計 100 名の高校生と 30 名の日本語教育関係者を日本に招聘し、ベトナムで第一外国語として日本語を学習する高校生と日本語教育関係者（日本語教師、学校長、教育行政関係者）に対し、グループとしての訪日機会を提供し、日本視察、日本の関係者との対話・協議を通じて、日本理解を促進するとともに、ベトナムの中等教育における日本語の基盤を強固なものにすることを目的とした事業の第 3 回目を実施した。

今回は平成 30 年 6 月 26 日～7 月 5 日にプログラムを実施し、ハノイのキム・リエン高校、ダナンのファン・チャウ・チン高校、フエのグエン・フエ高校、ホーチミンのマリー

キューリー高校の生徒それぞれ 10 名および各校の副校長、日本語教師、各地域の教育訓練局の幹部職員、計 52 名を招聘した。大学（東京外国語大学、早稲田大学）、専門学校（東京デザイナー学院）はじめ、駐日ベトナム大使館、文部科学省、国際交流基金、環境施設（板橋区エコポリスセンター）、工場見学（グリコピア・イースト）に訪問、視察するほか、高校（関東国際高校、東京学芸大学附属国際中等学校）での交流、ゆかたの着付、和太鼓演奏等日本文化の体験や箱根見学、都内見学を行った。帰国報告会では、多様な内容のプログラムに加え、高校生が多感な時期に親元から離れプログラムに参加することで参加生徒の日本語学習への意欲の高まりと日本への留学希望が増え、参加生の自立や成長を喜ぶ教師や保護者の声が多くきかれた。

3. 国際交流および人材育成の講演・セミナー事業

(1) 異文化理解講演会

平成 30 年度に當作靖彦教授の講演会は以下のとおり実施した。

① 「グローバル人材に期待される人材とは～地域創生のために～」

福井大学（平成 30 年 6 月 27 日実施）参加者数：約 130 名

② 「アクティブラーニングのめさずこと -能動的にさせるから能動的になる-

ベトナム日本語・日本語教育学会（於ホーチミン市国家大学人文社会大学）

（平成 30 年 12 月 11 日実施）参加者数：約 60 名

(2) かめのりフォーラム 2019

「かめのりフォーラム 2019」を平成 31 年 1 月 11 日に開催した。第 1 部では第 12 回かめのり賞の表彰式および 2018 年に実施したプログラム参加者および大学院奨学生の体験発表を行った。第 2 部では参加者・奨学生との交流会が開かれた。

(3) かめのりセッション 2019

かめのりフォーラムに参加したプログラム参加生および大学生奨学生を対象に、国立オリンピック記念青少年センターに宿泊し、平成 31 年 1 月 12 日に各プログラムの学びや帰国後の活動の振り返りを行うセミナーや大学生奨学生のパネルディスカッションを実施した。他のプログラムの参加者との交流やグループ活動での協働で、コミュニケーションの大切さやアジアへの理解を改めて考える機会となった。

4. 国際交流および人材育成に関する顕彰事業

第 12 回かめのり賞はかめのり大賞 2 部門（草の根部門、人材育成部門）計 3 団体に顕彰した。将来を見据えた、地道な努力で心の絆を深め、相互理解に貢献している団体・個人の活動を評価した。正賞のトロフィーと副賞として 100 万円の活動奨励金を贈呈した。

【かめのり大賞 人材育成部門】（敬称略）

特定非営利活動法人ブレーンヒューマニティ

学校法人アジア学院

【かめのり大賞 草の根部門】

特定非営利活動法人 ISAPH

5. その他

(1) 広報活動の強化

継続的にホームページの充実を図るとともに、当財団の活動を関係団体はじめ広く周知するために、事業活動を紹介するニュースレター「かめのりコミュニティ」を7月、11月、3月と年3回発行した。

(2) ITの整備

いままで奨学金を支給していた過去の奨学生に関して現状を把握して、かめのりコミュニティの特集号で紹介する以外に、継続的にかめのり財団との関係をつなげるべく、OB、OGのネットワークづくりのため立ち上げたFACEBOOKを含み、引き続きIT環境の整備を行った。

以上